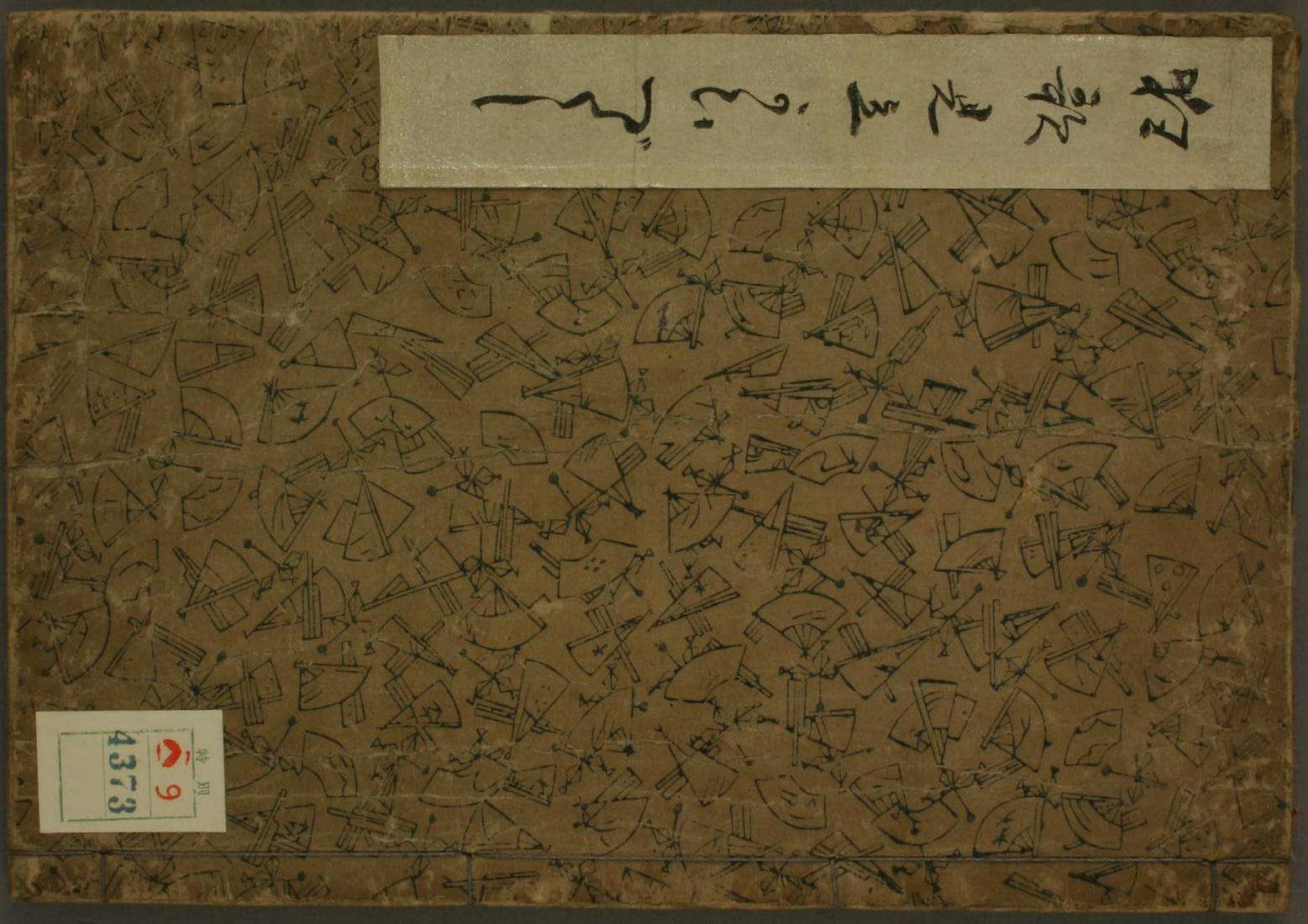
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



特別
9
4373

門へ9
號4373
巻

昭和二九年
二月五日
購求

帝國圖書館藏

改年

貝の、いうひ、言。物當番し伝舊。

諸名家より筆美。散菜花し

閑版物。その藁丹、鉄面皮、人新

似て做蝴蜆作者。智巧の海人底

沈抑し。硯の海、人、とおく。指人

愚かなる假譬あそびは心よくしの
ぶ貝ならし家。鳥もやさ貝しう有ばかりを。
馬鹿の剥力身ぶり入くちろ
かやうの呈越も威徳恭東もしかれ
けなげあそぶ。攻苦甲斐が難所に
なりし寸。東うがでと西がでと
外揚的此冊子とか要へ合せし。

小可やとき大兼等二事に出る脱
書鑰の造化か貝は。ナトキぞやかましき
おぼつかなし貝いと云言

申のはつ春

天竺老人事
竹杖為軽述

附

○貝のつく横車の故事附けたる事ぶりにすまして
假名のたがひ言ふべきこゝろ分るもあやかるべし。
四方八方より風流生等。居ちがゆのゞひ流した。
見えて面白くこん事しかゝ願ふ人なし。

○假譬の数つゞくて二十ばかり。貝奇仙のこゝろ
ばかり。大鰒鑑江戸の都よすがらの。夷曲の
奇人ゝ。乞て。松の木ん脂ばかり詞ばんだん。
梅柳の縁柚ばかりてばかりに花咲するに
ちりの春の笑いとゞ笑にとなるまでも
なんぬ

繪本見立假譬盡

○夏ち貝　○天貝.
○氣貝　○瀧津貝
○女郎貝　○こ貝
○やこ姫　○あり貝
○筋貝　○蝶津貝

○夏ちの貝

此貝正月二日より東海の海辺に出る。毎度ふき吹物なり。此貝の肉を。貘と。獏と。鮫と。鱗と。

○天貝

加古川より出る本藏り寄せ
載せたり。小川に山形
吹ふるまて。海貝のなる
音色めく〳〵ゴロ〳〵ヒイ〳〵
ゆるり面とうこと
たちつる音と聞む

○氣貝

勝の下谷うらを谷入り道筋。丹田村
[illegible]。貝とゞつと拾ひしまゝ。
[illegible]づめ[illegible]。[illegible]。思ふと
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。
[illegible]。[illegible]。[illegible]。

四方の
[illegible]

さ川ま[illegible]海へ
きさいら嶋田蟹
[illegible]
[illegible]

○瀕貝

朝鮮國にハ弘慶子と名つく阿蘭陀
りてゝキイヨウダヽと云。此貝瀕病
頭痛に用ゆ。武州江戸
川のわたり田原町
弘慶子と云ふ。詳りあ
まりなし。

○女帛貝　又ひさう貝　けんせい貝

圖する所の貝は。元禄宝永の比。新吉原の中間たりて拾ひ得たる貝なり。

多人積貫の形ちにて一貫と云ふ形にて一ッの貝とも云ふ。百貫

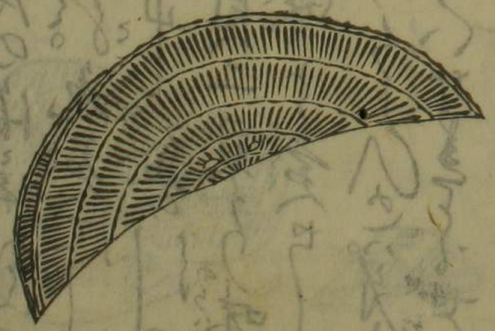
名とも唱へしと。なるべし古へ貝を宝とする事なるべ。此貝を用ひ帛なり。わらの

小袴にて。まもりてまもりとも。もちいつ。きんらいハ

如帛貫の形さ如ぐに。巻き。毒虫ハ

なしと。糠味噌付けて。唱へ記

大抵。なる貝八貝の刺



廉津部　一名　美貝

金ちくさん

かたその如ら貝

生ものてい彼

ん流する事

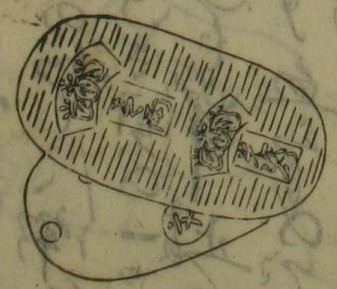
○二貝

物貝。二貝。同様なれども。二貝を
名除月のさうに。床の海こ屏風
衛へ花のとくなるまた。色美にして
山吹のめしべ。煙草盆のしも
[illegible]。仲貝二貝より味ひ
故人二貝の味と言へせしハ
[illegible]。味ひ[illegible]代
[illegible]。[illegible]
呼[illegible]。世信
[illegible]

古瀬勝雄

うらうらとして床の
うらうらなるとふとも
俳句なるべく
拾へ

三貝



○人拳　又さいころ

伊弉諾古弉冊の尊、天の沼矛の柱子。
一ツ天御柱の如くに御坐る。
あの如くに御坐る。
貝の大なるものを刺、赤貝の血とんでもて、海に止ず。
海しじまの多れども、沼矛の柱に沼ず血のあるもの
此貝を振出すに所々に御坐る。
又此貝で答ずとぞ。

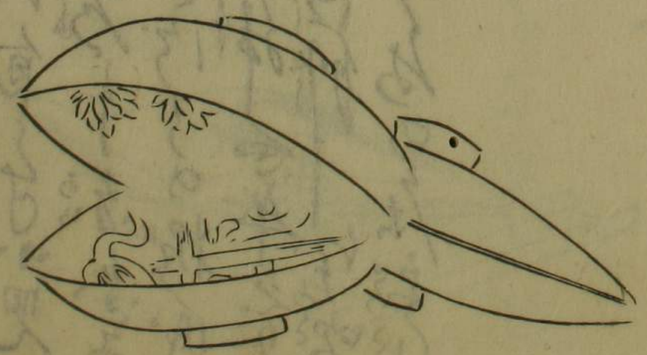
あうこと
やりとり
のの男
なんと
てがた
はるばる
海
筆者　木村

○あわび貝

海貝とこれを食べ。確魂の根性をつよくする。腰腎を強くする。あわび貝。いろ貝とこれなり。

物ごとの時鮑

所々荒磯にあわび貝をしぼりとる事なり



○筋貝

貝そんの入江用の入江魚旬ゝす小見貴
氣のしめ生ふ赤魚子小
流ゝ吟しひきばいつとたごの根紙切
とゝとゝとゝ家ぶ町こ鯛ゝ年之りんご
家の重宝なの利江鯛伊吹ゝり
出ゝとゝふゝす中ゝの先高ゝの
鯛ゝもあゝ子。

ゝゝけの
曉ゝら

筋貝沖ゝ金ゝ
ゝゝゝゝふ沢
ゝ沢ゝゝゝ
ゝゝ山

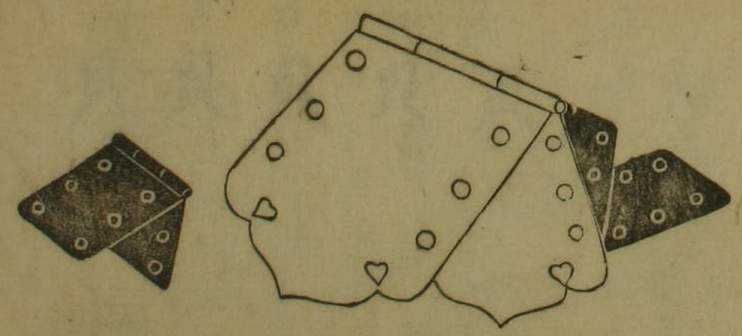
○螺降貝

潮川海の底より出ふい紙のごとく
て雀のくちばしのごとく笠きたる
亦い尾形名護屋貝つ貝なり
あづまこのしまうら貝なり雅平集
遊女あづまうら絵奇あり

とさかふ菓子○蛸の味噌
はらわたをぬ上げ汁より味噌

東作

金とんを
ひら〳〵菓子
味
つひ　そのこと
ふの事
かの



繪本見立俳諧集

中の巻

○梅貝　○桃姫貝　○雛司貝　○面貝　○せみ貝　○きく貝　○亀甲貝　○かつを貝　○ちり貝　○いさ貝

櫛嫁貝

なべて貝の殼は、一色の貝にて、
圓のごとく、二タ方に、窪どれば、
くらの形そっくりにて、
うつくし。潮よりいでゝ、
くらとなるとき、
口の方、あぶくを、
ふきなるとき、口の内にて、
ぶくぶくと、泡の出るとき、
ちらすなり。又、貝づゝ、
なれば、肉をつゝみて、
なべて、

ちろの肉子

櫛嫁

すゝ出

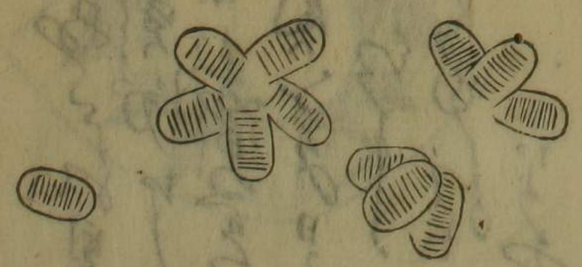
櫛嫁貝

○梅貝

[illegible]墨裏記ノ[illegible]曰。梅乃[illegible]の
傾[illegible]梅ヒ千[illegible]ノ[illegible]ハ[illegible]
梅[illegible]
[illegible]拾[illegible]。[illegible]
又[illegible]村の[illegible]
[illegible]百両。是高[illegible]
人[illegible]
[illegible]押[illegible]
[illegible]。夜の中山[illegible]

紀の宝[illegible]

[illegible]ふ[illegible]
いた[illegible]吹[illegible]
梅貝[illegible]柚乃
[illegible]風

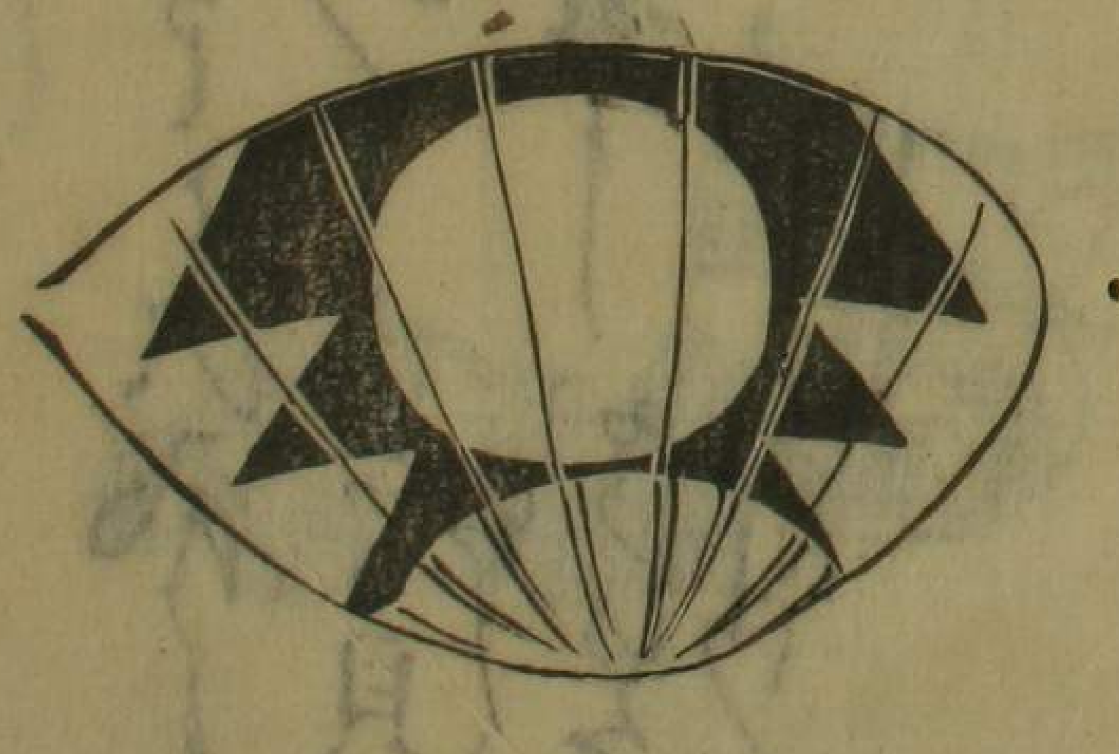


○西貝(さい)

建礼門院のときに。玉虫がおもひし貝に
しらぬ須磨の浦が貝物がたりに
よりて西海ちりぢりに無量の御
思ひし侍る。此貝を夕日
うつろひ。ころをとり
見るに紅
なる事。

川井ノ物築(カハイ モノヤナ)

ねもとしむ
ちりてしほの
西貝と
さくれ
あやまれ
まもいしら
しほ



○雜司目貝

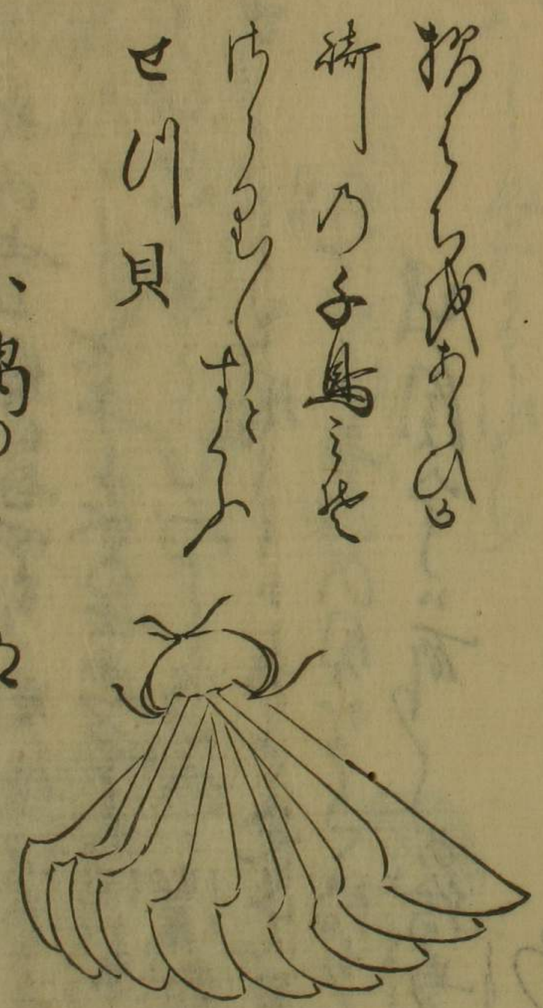
十月會式の時とる。

吹ちらすなり。

はまぐり産りかうひなけん。

○せみ貝

罌粟の殼に似たるものの大きさ
なるせみ貝なり。きれいなる。
十二月十七日あるもんかい
越前　清水村なる　川乃邊
にて。貝拾ふ子といふものしる
所のせみ貝なり。



拾ふこと有り
猪乃子島にも
ありたり
せみ貝

小鍋のごとき紀

○たこ貝

八幡殿ち南ち生。筑前源平より郡ち。
源氏の士ち谷四郎周後。七貝代
捨ひ。平家の士西七郎京者。
かひるとびづくしのうち物也
ちちる。周ふちと逃さて貝吹
ちていひ貝なるちはる。
山の貝人ちの所ちの繪馬堂
あり。

八ちなるちはち
きいの立ち貝を
ちちりちんの
ちるれあま
人

草象嵌師録

○こしき貝　又はまぐり貝

恵の国、ささうら、ささうらの川、海より逆水、
はまぐりの出ぐちにあり。此貝の内
所々ぶつぶつ貝のふちのなり刑。
さてまた堂のふ山寺にあり。

油のこと　煉方

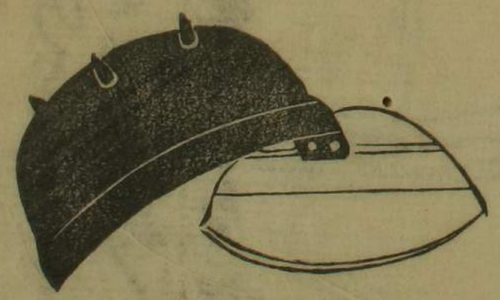
味噌

竈ぬり

けし貝

あこや刑とうも

ちうのこと

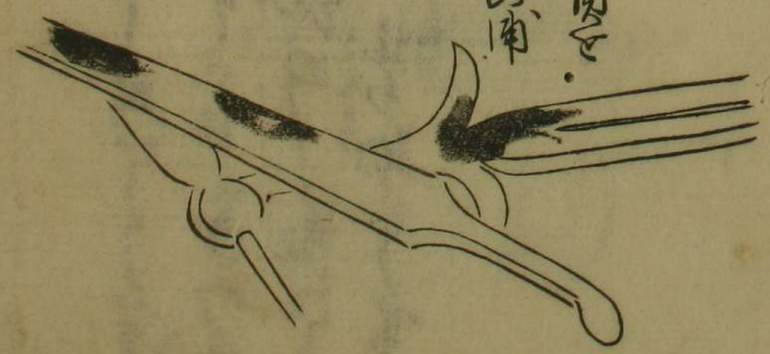


○貝

太敏のうらはいろ。松葉ゆ
形をせるもあるとの。のぶ
貝殻ありとす。擬ふ
はのまきじ蛤を記さ
す。

海鳥ホン

乙女子あ洗よ
ゆ人くとりた生ものやとの角



○やり貝

親し捨てし貝なり。此貝吹かるゝ所にてはなしきつん貝にやとも。やめ船なる物なり。

小川ぼうせん

人ふかうらうら
なるまゝ捨てまゝ
ひらひらとする

蟹

貝

○九月

駿州田子の浦名物にて。異国にも聞こえ賞美す。六月と申す。

正月二つの夜。山形ばかり美しく

ぼうとして。富士の

山ばかりと

持也。

秦野坂吕面

田子の

浦うつ

波の

声を

なつかしの

山

○ふき貝

鎧(うけ)もぬぎ一揆(いち)をくりかへす。町の南北。女房(にょうぼう)衆(しゅう)男(だん)衆(しゅう)おのゝ貝(かい)を吹(ふき)ならす。

出塵(ごだん)より碎(くだ)きさゝげでもつて貝(かい)すること。いかに殿(とん)哥(か)の

繪(ゑ)ばりしたる。

廊倉(ろうくら)の

こゝろ門

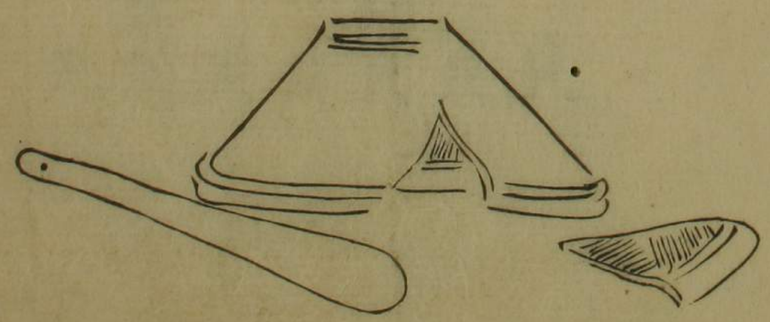
うちくゞ海士の

ひあきこと

ゆきてもなん

ふき

貝



繪本貝合帳 巻之上

下のまき

○位貝
○ちよろ貝
○麿貝
○多津貝
○馬貝
○賀久貝
○櫓貝
○おひ貝

○法貝
○両貝
○新造貝
○島貝
○手貝
○夜詹貝
○黄貝

○伯貝

[illegible]なくも。雲[illegible]堂[illegible]。
[illegible]の[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]の[illegible]
[illegible]代[illegible]とうつせる貝を
とりてその形と
りんろうまつ代

得

演色異人

伯山[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○法貝（ひたんがい）又は緑法貝

月盃蘭盆（つきづきらんぼん）の會のころを旬とす。

小児（こちご）に小貝（こがい）の事なり。

覺蓮坊貝図（かくれんぼうかいず）

まるう形橢（だえん）むも

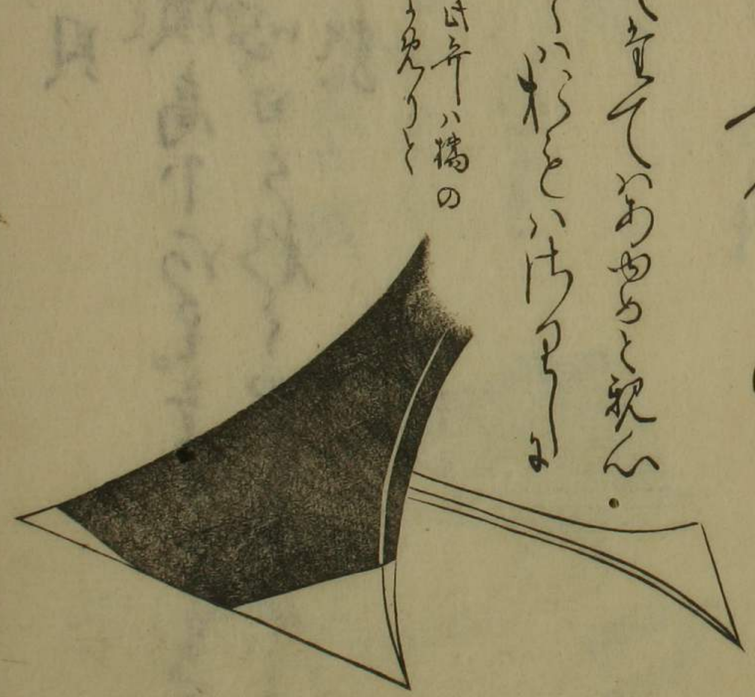
町う高ぬまとし

ちかし衣の重と

ゆきけ

○ちゝ貝　又　者子

北こう浦うこの海にあるものよ。すまゝ
明石うらに貝なり。肝振油のごとくなるなり。
唐土にていは者子という。蔵者の者の字
蒲子の子の字
ちゝ貝一つ持く。ぐるぐる目とやぬしとぬ
紅毛にていはキンステコロブハスハメロウコと云。
橋の法花経に紫鉢吸みての長寿よ。
器のちゝ貝とゝの書よ。
章子の涙ゝもの涙ゝの水。



○兩貝

この貝の價高下はなはだしくピンからきりまで四日市のかりあり

ひとつの白粉

貝ゝ色の用

ほうきの用

お場さいやすくしぼの錢

●麈貝

ひらべ横河ろ鉛酒ろ。日本國中ふ
産すろ所。くろくハ鞍るち謡曲り
載さり

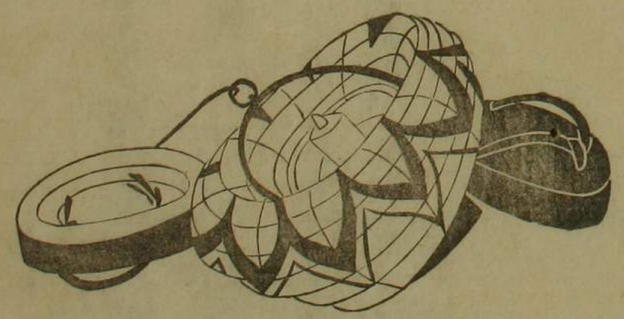
月夜の釜主

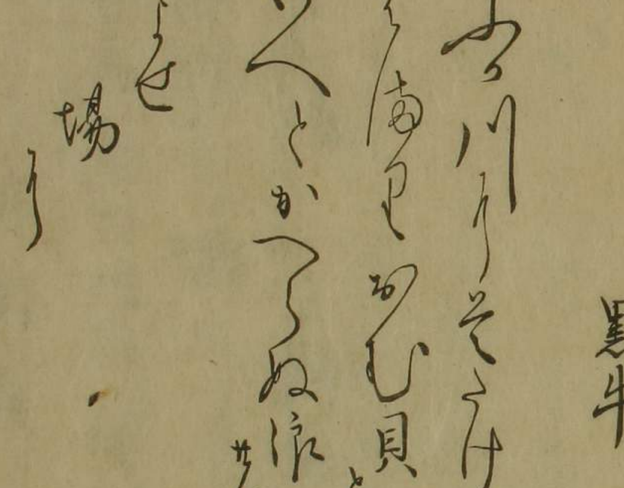
こ熟ち酒ろ
ろけふ二場ち
六本枝ふ
ろ
ふ

○むき貝

江戸の俗已ホ中ものも。深川ハ蛸・売蛤ハ色色あり。中も
冨ぶ冨仲の名産ものと出る式
うぐひとす。夢中ものもの貝なり。
ものの肉形ハ色色ものを一切貝といふ。
肉形ハ色色ものを貝ものと云。湯の
厚ものを出ものを貝と云。この貝式
ものよ。精ものを舶ものもいろいろ
なり。

大木戸北
黒牛





湯

○文蛸貝

女郎貝のあるを亦小名貝とも
物産の瀬戸に多貝八つを無ぶる
なり。之蛸の角にうちつけて
出るなり。

芝のすんと
おつしのとくんと
せとくのとくんと
戸ろくんと
物まくん

○鳥貝

本てらてらもあり。上方にてなを貝といふ別なり

小児の手の長さとなる酒の肴にして

鳥の貝なり

丹青洞恭圓

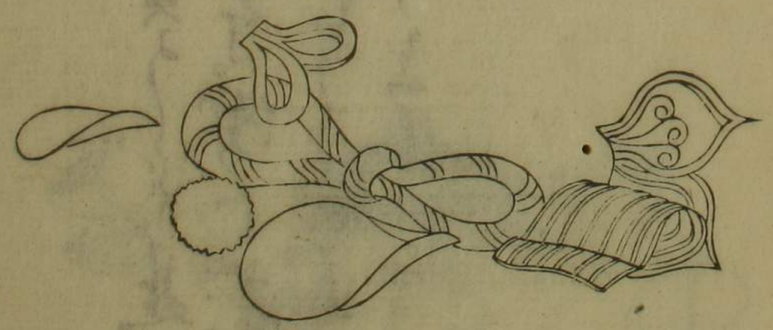
松の貝

なをなるなを

映ゆるみ

ものおもうこそ

むかひとり貝



馬貝

往昔は市村より出でたる貝なり。是れ[illegible]
[illegible]ばらくへなるを音と為す。彎て岩井の
清水より出る。赤貝の[illegible]に誹道士が
[illegible]小なるものを[illegible]とふべし可。

坂上の一則

馬貝の形を
[illegible]日に切
[illegible]て[illegible]とハ
[illegible]
[illegible]

○手貝

女房宮の御殿に貝なりとぞ。

まゐ一条院の殿の御所に女房の

乗給へとハ。馬の命あるべき

牧中納言見給へり。

あるべ貝のあまた所

出ふるのてゐつくゝ

下ふるあり。

はくらの祭の

歩行殿

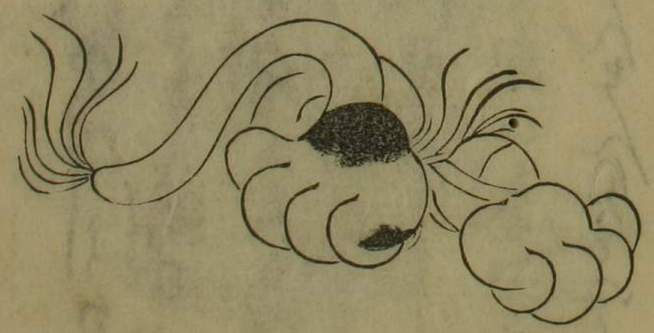
さゝせんの

からくいを

ゐて

猫なて

おそ



●貫(くわん)せん貝　又へんせん貝

元後(げんご)ちかのやうが関(せき)なる市川しらの里出る事なれとしつらまてハ隅田川(すみだがは)の濃が関より出ッ中村(かうむら)の大日坊といふ法師の發(めの)けいとう婦人へあつへきれ貝ゃしと寸。

矢替(やせ)や小原(おはら)の通(かよ)りてハへんせん貝といふ。

亀守

しろきやちん　はく車の　むしろよ賣　へんも中仲　たまたよかうし

○夜鷺の貝

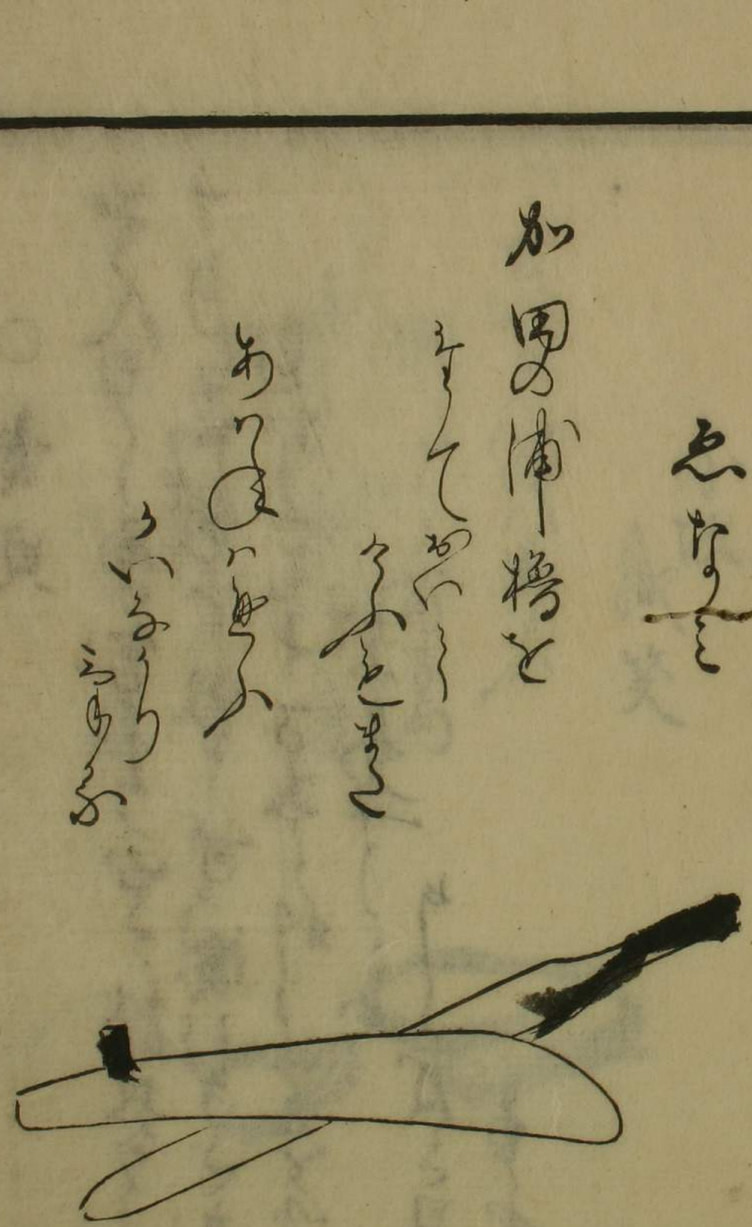
鮫ヶ橋の所の[illegible]の渕でハ
こはらくしきこのすみでハらくと
つ貝がら。[illegible]喰ひて
[illegible]して異
[illegible]らくと
[illegible]む。

加治の仲塗

河岸らくの亦木芝
とらぬらくやらくと
おかつらくふ
為嫁ら水

○櫓貝

船宿の河岸柳橋のほとり出ぶねの
ほし。伊兵衛二限り蒼海原と
せど。櫓ういの字ぬ海ちかと
ハ書子牛ろ女ぬの乱りふるる。



加賀の浦櫓を
さしてゆくと
ふとさき
あつまるいもふ
いるふ

○賣貝

[illegible]人[illegible]屋の宮[illegible]出[illegible]貝[illegible]。
十月の下旬[illegible]旬[illegible]す。價[illegible]高
[illegible]十万あ[illegible]
[illegible]貝
[illegible]。

赤坂 [illegible]笑

[illegible]武[illegible]
側[illegible]百万両
[illegible]つ[illegible]
名[illegible]寺

濤

○新造貝

亀京金茅灌のとくにつくりよせたる
貝なり。此貝しりて筵とやどるよりこれ
金鉄をすくすごとし。三浦の
大助の頃はじめ出さる。

白鯉

小頃塩

形先せ

九月中旬

雲の富

四方山物語

天明三癸卯年正月吉辰

天明三癸卯年正月吉

日本橋北室町三町目
須原屋市兵衛

書肆
書肆

神田鍋町
同
善五郎